

1995年11月2日 石垣島バナナ公園

初めての道をどんどん辿ってバナナ公園南西側裏門に到達。自転車を入口に置いて大樹のデイゴ並木道がつかぬきれいな導入路を進む。園内のうす暗くなった木陰に咲くサンダンカの赤い花にはクロアゲハが群れて求蜜している。タイワクロボシジミが周辺のアカメガシワの大きな葉に産卵をしておりこれが食樹であることが分る。そのとき頭上に黒いタテハチョウの一種が現れてデイゴのかなり高い位置の葉上に静止する。羽を広げた瞬間に初めて見るヤエヤマイチモンジのみだとわかる。きれいである。高貴な感じさえ漂わせている。ビデオ撮影もしたいがなんとかネットインできないか、うまくジャンプをすれば届くかも知れない。ねらいを定めて飛び上がりざまネットを振りあげたが残念ながらネットには入らずに道路反対側の木々の梢を越え、もはや手のとどかない下方の広い森の方向へと飛び去ってしまう。

1997年9月20日 西表島大富林道

今回の目的はヤエヤマイチモンジ♂。林が開けて陽あたりのいい林道に踏み込むと、路傍のセンダングサにスジグロカバマダラたちが群れ飛び、路面では2頭のヤエヤマイチモンジ♂が遊んでいる。いずれがより新鮮体なのか区別判断する目的も兼ね、驚かさないうちに距離をおいて Video 撮影を試みる。ファインダー越しにいずれも羽が少し傷んでいるのが明らかだ。路面で吸水している手前の1頭にネットをかぶせて初の♂をしとめる。白帯のまわりにわずかに光る violet blue がきれいだ。あとの1頭は身の危険を感知したのか近くの木の上先端に移って、よく知られた占有見張り状態に入る。静かにネットを下から近づけて迫るも、あと少しというところですばしっこく飛び去ってしまう。後に石垣島と竹富島でタテハ族には緑ネットがより近くまで警戒されないことを体験するが、この時ネットの色は赤。『1頭がいなくなってもすぐに別の♂が現われる』というヤエイチ♂のテリトリーに関する生態図鑑の記載どおりにはことが運ばず、30分ほど粘っても再び姿を見ることなく終わる。



2005年9月29日 石垣島オモト林道

オモト林道一帯にはヤエヤマイチモンジの食樹であるコンロンカが至る所に自生しているのだが、タイワンオガタマノキのすぐそばにも大きいコンロンカがあって、その大きな緑の葉陰にキラリと光る金色が目にとまる。ヤエヤマイチモンジの蛹である。昨年は幼虫を見つけて持ち帰る途中どこかで落としてしまうという苦い経験をしたチョウの蛹が、今、美しい金色を輝かせて葉裏にぶらさがっているのだ。これは感動もの。初めて目にする自然蛹をしっかりデジカメ撮影をしてから寄生蜂などにやられないことを願いつつ枝を折り取る。



51004 石垣島産羽化♂



51019 石垣島産羽化♀